
2012年3月期決算説明会資料

～中期経営計画「IK2013」の進捗について～

2012年6月7日

稲畑産業株式会社

代表取締役社長

稲畑 勝太郎

2012年3月期連結決算実績



震災、タイの洪水、円高の影響により、情報電子・合成樹脂・化学品の主要3分野が伸び悩み、売上高・営業利益共に減。一方で、持分法投資損益は改善し、経常利益・当期純利益は計画を上回る。

| 2012年3月期連結業績 | | 対計画比 |
|--------------|-----------|--------|
| 売上高 | : 4,644億円 | ▲256億円 |
| 営業利益 | : 76億円 | ▲4億円 |
| 経常利益 | : 88億円 | +8億円 |
| 当期純利益 | : 62億円 | +14億円 |
| ROE | : 8.5% | |
| ネットD/Eレシオ | : 0.82倍 | |
| 自己資本比率 | : 30.7% | |

営業利益100億円の達成をめざす

中期経営計画目標(2014年3月期)

| | |
|-----------|---------------|
| 連結売上高 | : 5,500億円 |
| 連結営業利益 | : 100億円 |
| ROE | : 7.4% |
| ネットD/Eレシオ | : 0.72倍以下(注) |
| 自己資本比率 | : 29.1% |
| 想定為替レート | : 1USD=81.49円 |

(注) ネットD/Eレシオ = (有利子負債 - 現預金) / 自己資本

「IK2013」初年度の進捗状況(定量面)



| | 2012年3月期 | | | |
|-------------|-------------------|--------|------------|------|
| | 「IK2013」 初年度目標 | 実績 | 目標との 差異 | 進捗状況 |
| 売上高 (億円) | 4,900 | 4,644 | ▲ 256 | やや遅れ |
| 営業利益 | 80 | 76 | ▲ 4 | やや遅れ |
| 経常利益 | 80 | 88 | + 8 | 順調 |
| 当期純利益 | 48 | 62 | + 14 | 順調 |
| ROE | 6.6% | 8.5% | — | 順調 |
| ネットD/Eレシオ | 0.74倍 | 0.82倍 | — | やや悪化 |
| 自己資本比率 | 28.6% | 30.7% | — | 順調 |
| 為替レート(米ドル) | 81.49円 | 77.74円 | — | — |

(注)「IK2013」初年度目標は2011年5月策定。

「IK2013」2年目目標と見通し(定量面)



| (億円) | 2013年3月期 | | | 「IK2013」 最終年度 目標 |
|------------|-------------------|--------|------------|------------------------|
| | 「IK2013」 2年目目標 | 見通し | 目標との 差異 | |
| 売上高 | 5,200 | 5,000 | ▲ 200 | 5,500 |
| 営業利益 | 90 | 80 | ▲ 10 | 100 |
| 経常利益 | 90 | 90 | + 0 | 100 |
| 当期純利益 | 54 | 54 | + 0 | 60 |
| ROE | 7.1% | 6.8% | - | 7.4% |
| ネットD/Eレシオ | 0.73 | 0.75 | - | 0.72 |
| 自己資本比率 | 29.0% | 30.3% | - | 29.1% |
| 為替レート(米ドル) | 81.49円 | 80.00円 | - | 81.49 |

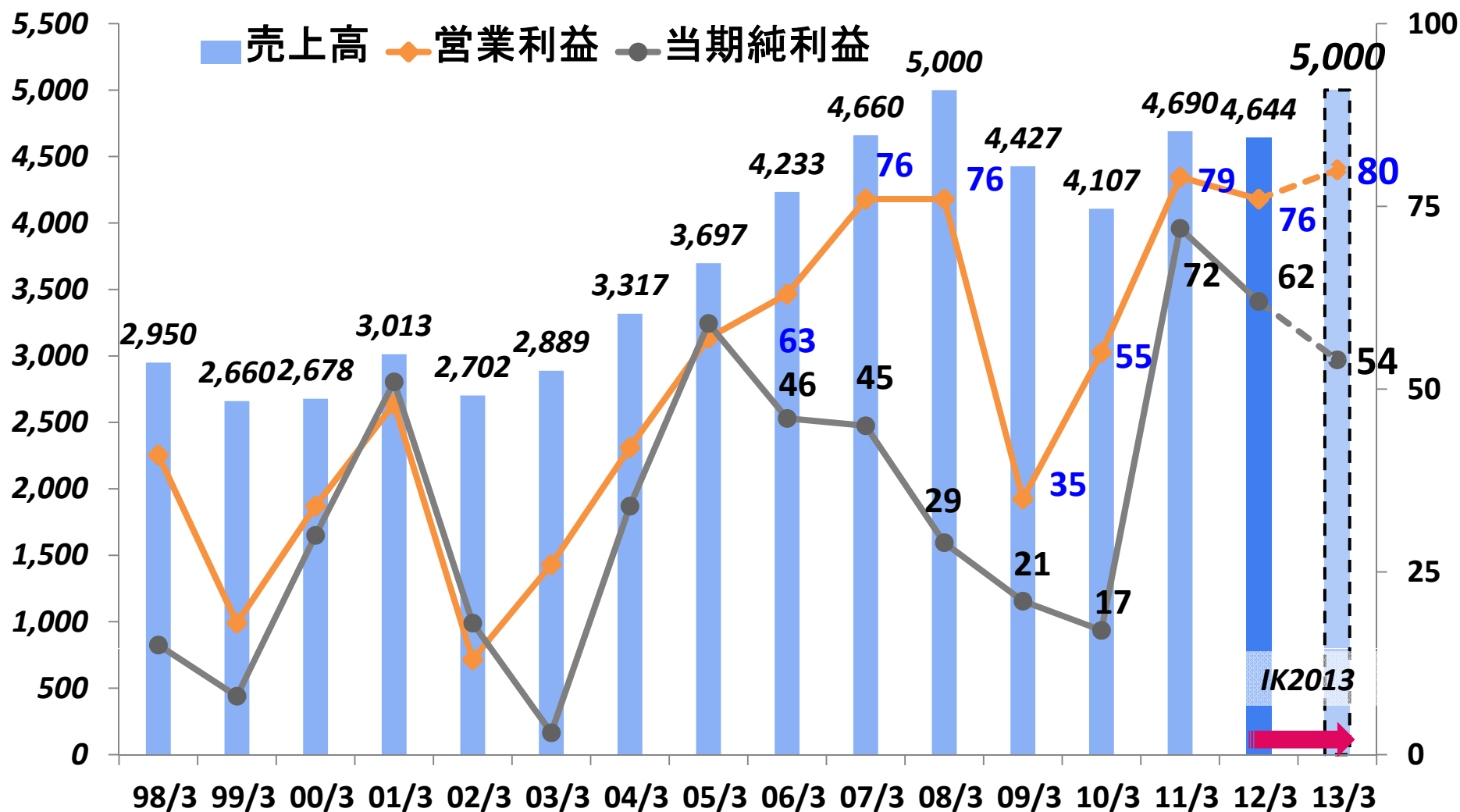
(注)「IK2013」2年目目標と最終年度目標は2011年5月策定。

過去15年の連結業績の推移



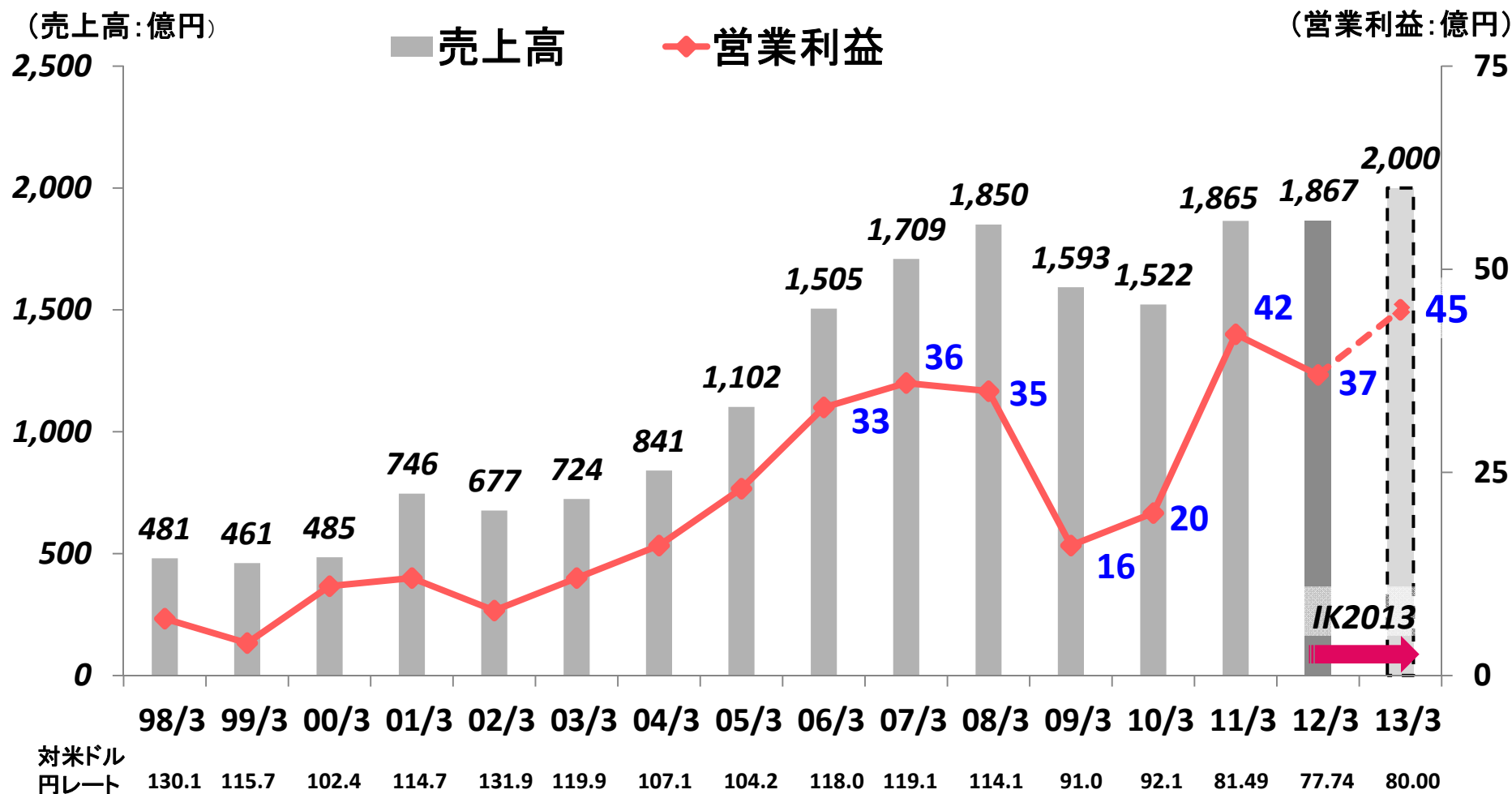
(売上高:億円)

(利益:億円)



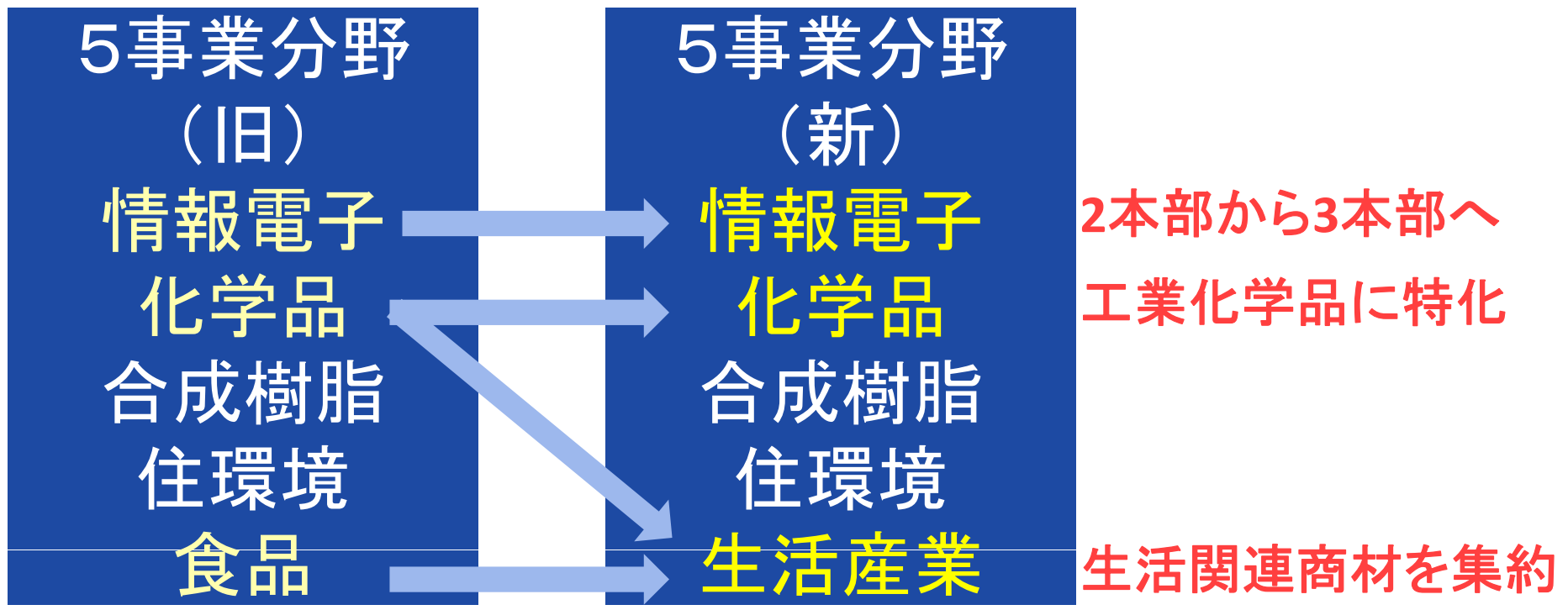
過去15年の海外の売上高と営業利益の推移 **IK**

2013年3月期の 海外の営業利益は45億円超をめざす

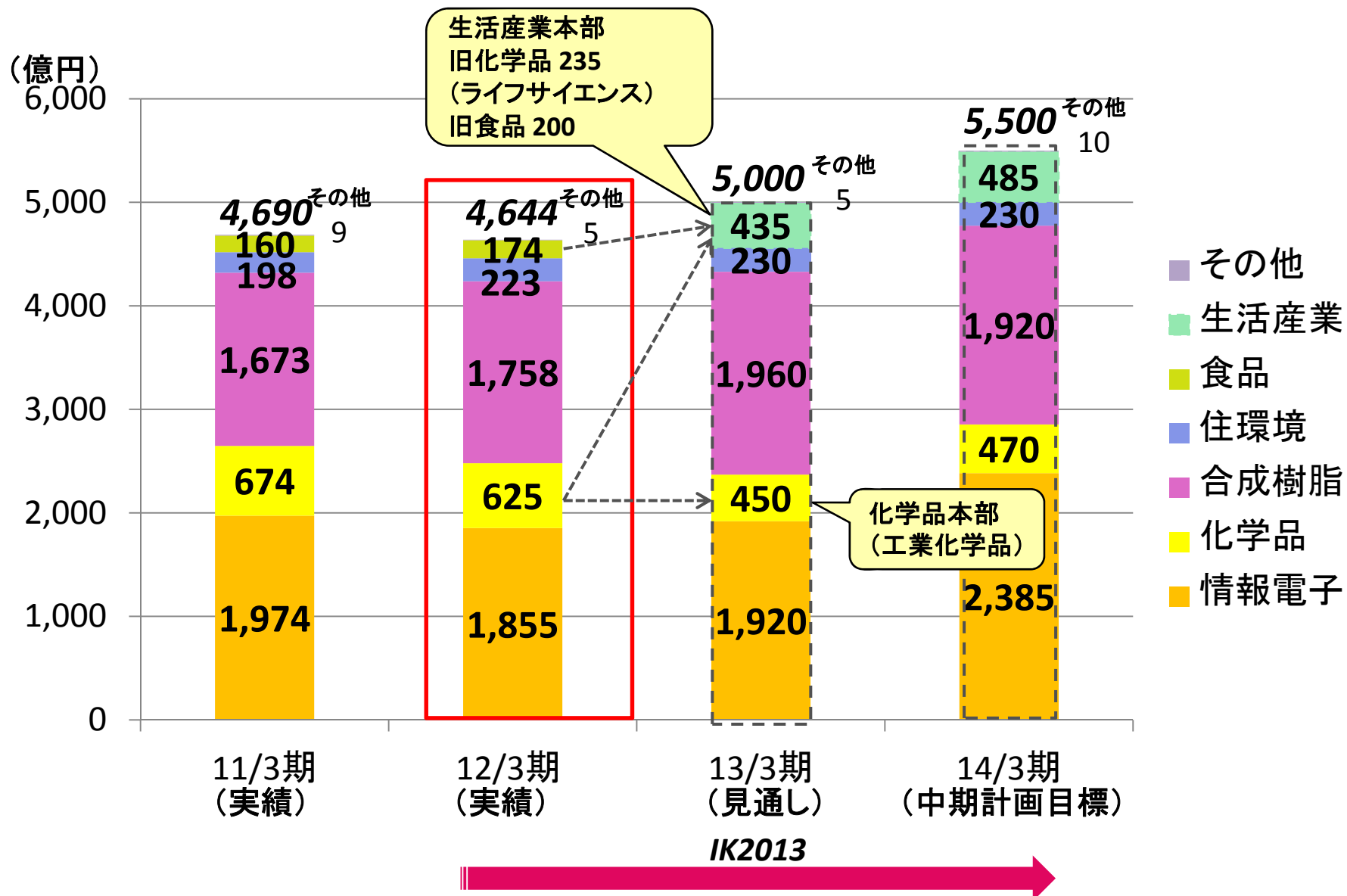


「IK2013」達成に向け組織を再編(2012年4月1日付)

- 目的
- ① 更なる意思決定の迅速化
 - ② 機動力のある組織の構築

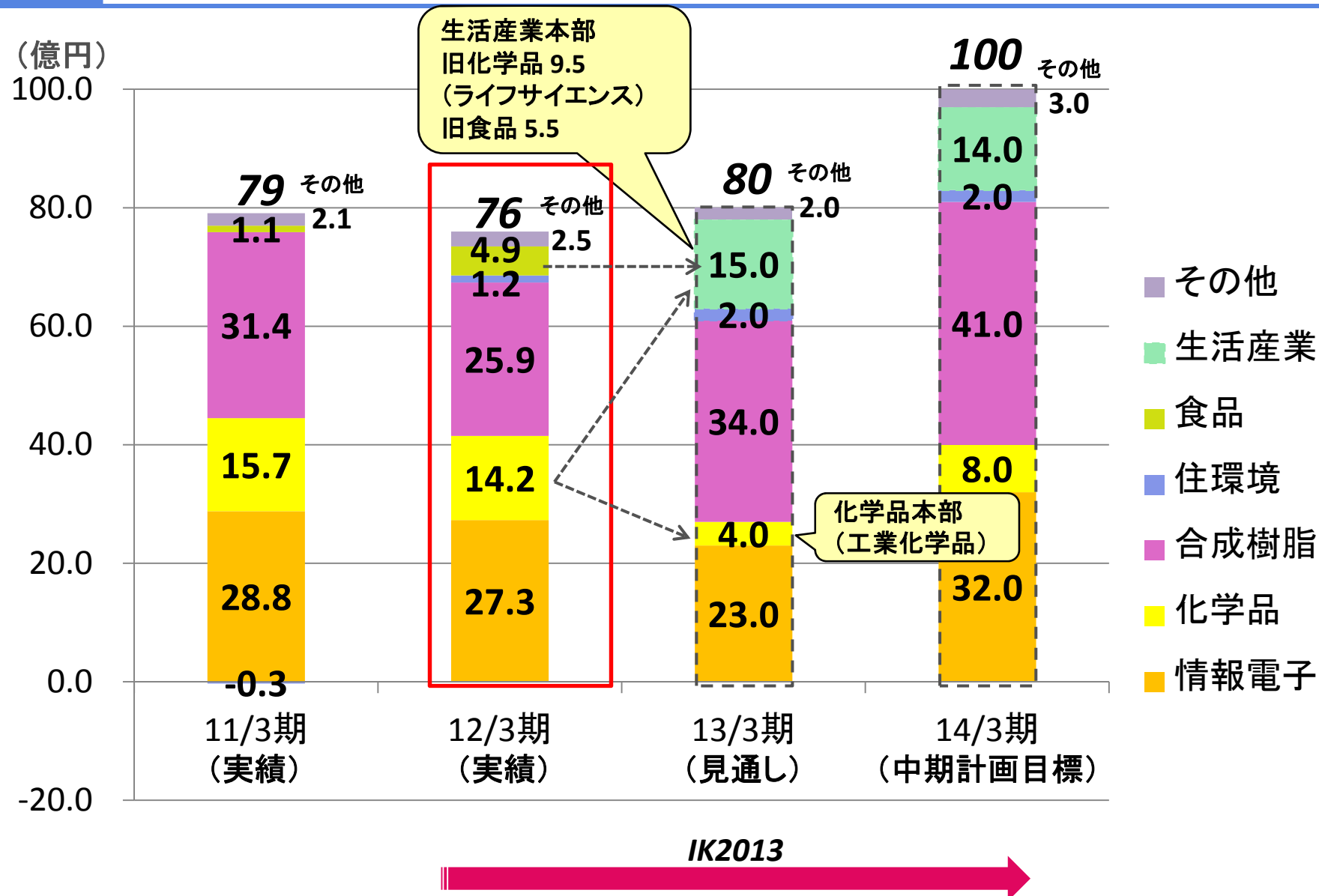


事業セグメント別売上高



(注) 14/3期目標は、「IK2013」最終年度売上高目標値を新セグメントに組み替えたもの。

事業セグメント別営業利益



(注)14/3期目標は、「IK2013」最終年度営業利益目標値を新セグメントに組み替えたもの。

「IK2013」の重点施策



1. 伸びゆくアジア・中国地域への一層の経営資源の投入
2. 新興国市場への取り組みの拡大
3. 環境・エネルギー、ライフサイエンス事業の育成・強化
4. グローバル人材育成のスピードアップ
5. 厳選した投資を実施し、確実なリターンを得る

1. 伸びゆくアジア・中国地域への一層の経営資源の投入

強みであるアジア事業を徹底的に強化



樹脂コンパウンド事業の拡充



コンパウンド統括室を中心にアジア7拠点で連携強化

- 最適な地域・規模での生産体制の確立
- 設備・原料の平準化、一括購入によるコスト削減

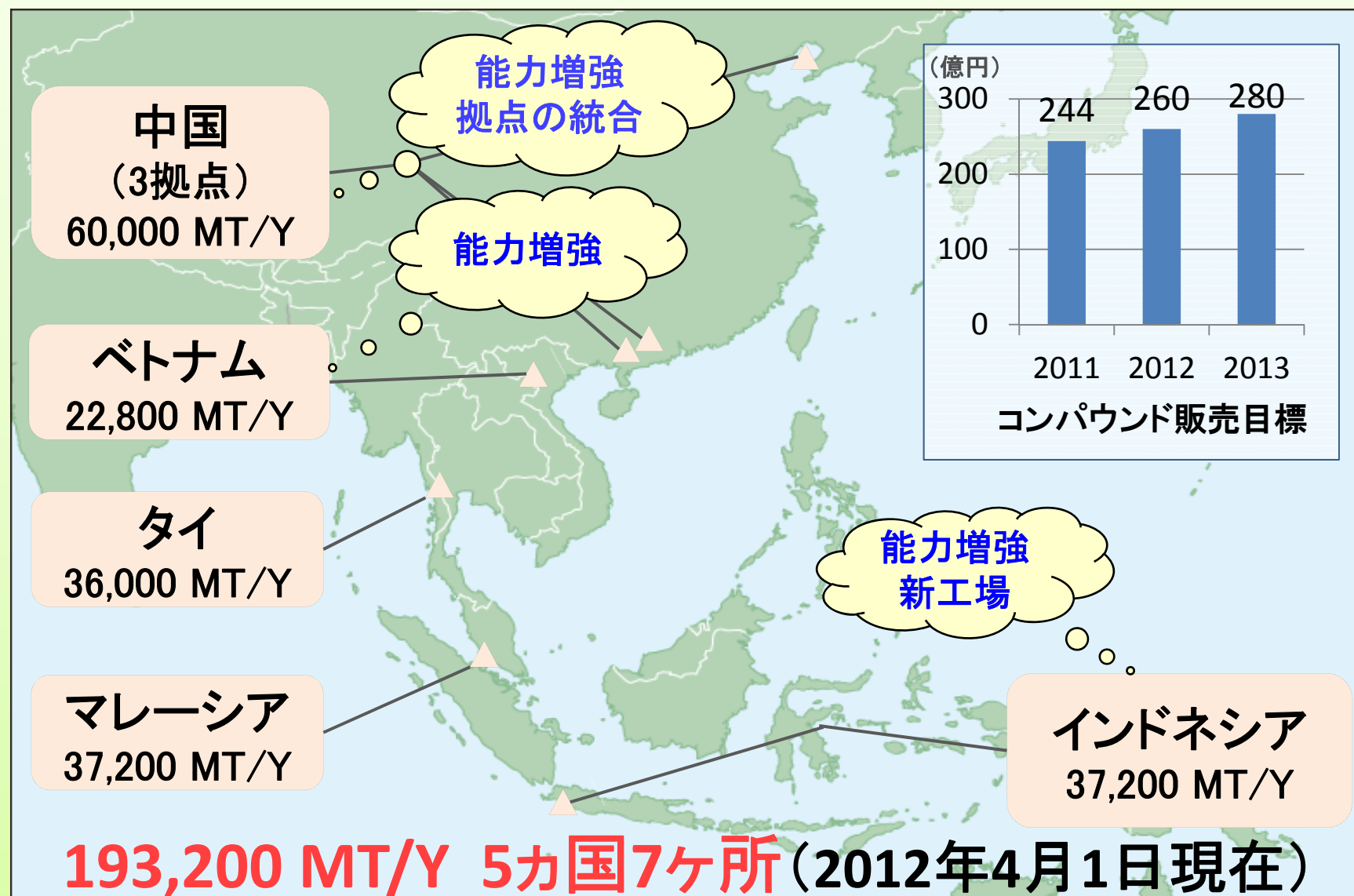
インドネシア・ベトナム・中国で生産能力を増強

2011年生産能力
193,200トン

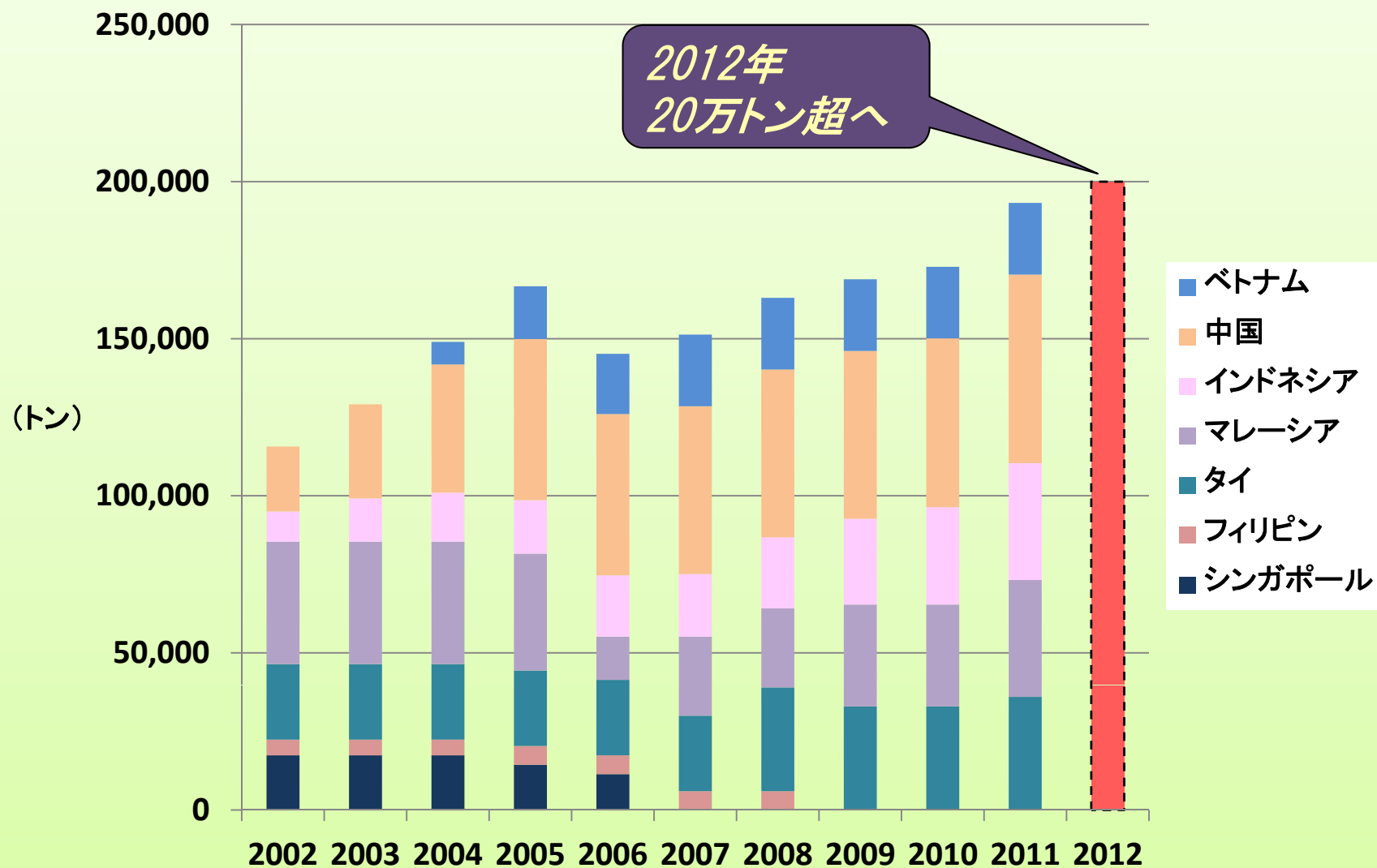


2012年生産能力
200,000トン超へ

アジア地域における樹脂コンパウンドの年間生産能力



アジア地域における樹脂コンパウンドの年間生産能力



2. 新興国市場への取り組みの拡大

インド・ブラジルと共に、**メキシコ**に注力

日系自動車メーカーのメキシコでの生産規模拡大
(*NISSAN, HONDA, MAZDA*)

自動車部材メーカーのメキシコ進出加速



合成樹脂を中心にビジネス拡大の大きなチャンス

- メキシコでの樹脂コンパウンド会社設立の検討
- 日本の樹脂関連既存顧客とのメキシコにおける取り組み加速
- 工場建設に伴うメキシコでのクレーンビジネスの拡大
(NH INABATA, S. de R.L. de C.V.)



中国・インドに対する取り組み①

中国

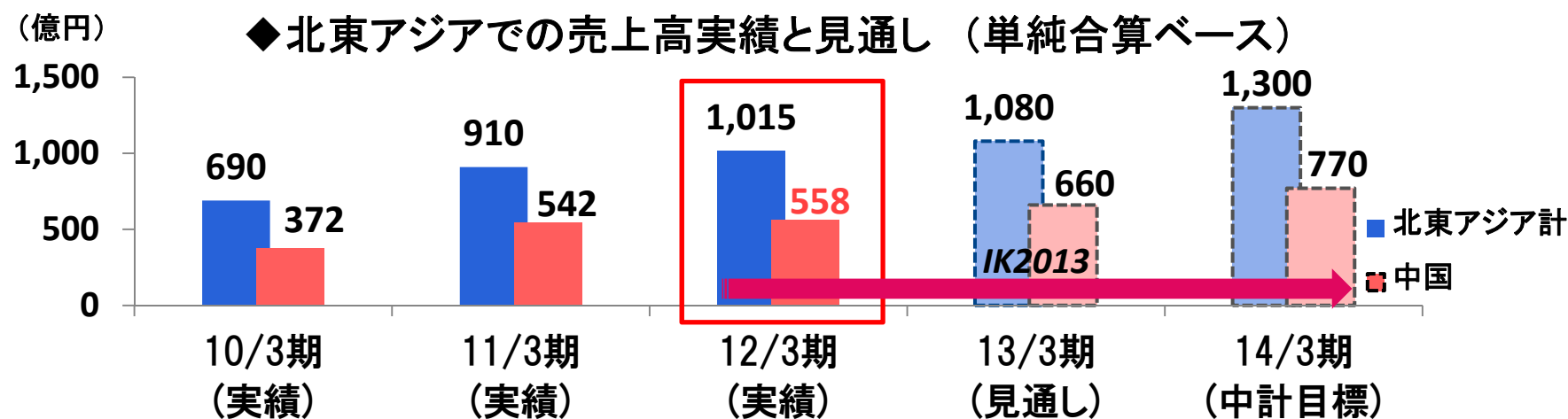


- 輸出型ビジネスから内需型ビジネスへ
- 沿海地域から内陸地域へ

中国市場の減速と震災の影響により、華南地区を中心に合成樹脂関連と液晶関連ビジネスで売上伸びず
2012年3月期売上 目標620億円 → 実績558億円

2013年3月期に向けた課題

- 駐在員の増強
- 製造加工部門の強化(プラスチック、ケミカル)
- 太陽電池・二次電池の材料販売
- メディカル市場への取り組みをスタート



(注)北東アジアは、中国、台湾、韓国。

為替レートは2011年12月末の各通貨の邦貨換算レートを使用。

中国・インドに対する取り組み②

インド



2013年3月期に
向けた課題

重要市場のひとつとして事業拡大に向けた取り組みを加速

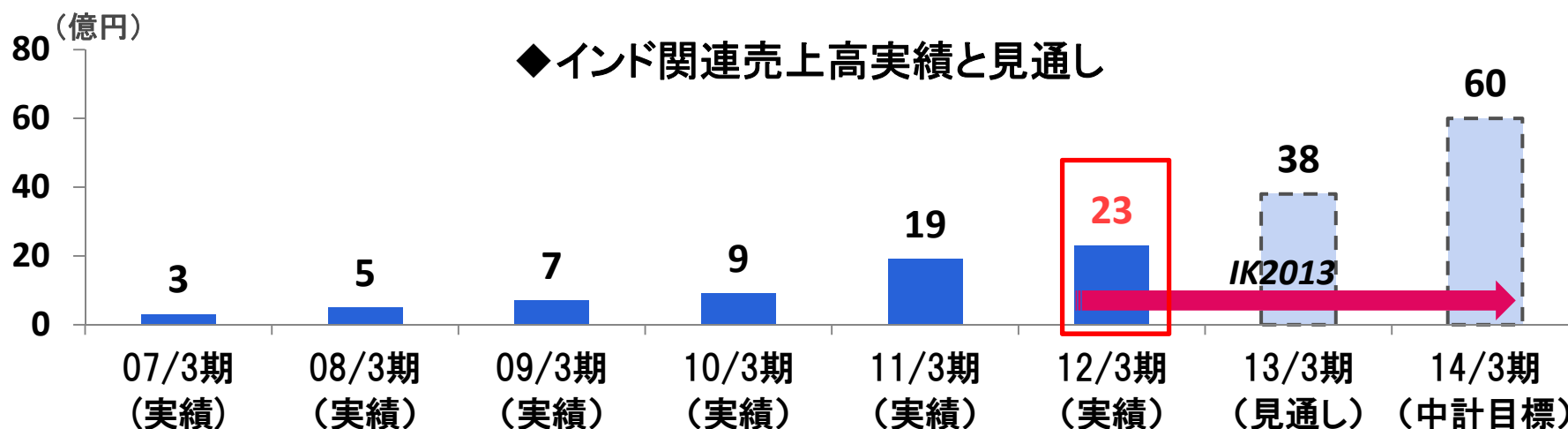
- デリーを中心に、チェンナイ、プネ(ムンバイ近郊)の3拠点体制

市場は低品質廉価品が中心

顧客層日系メーカーのインドへの進出速度は鈍い

2012年3月期売上 目標30億円 → 実績23億円

- 欧州・韓国メーカーとの協業を模索
- スタッフの育成、支店・倉庫の整備を加速

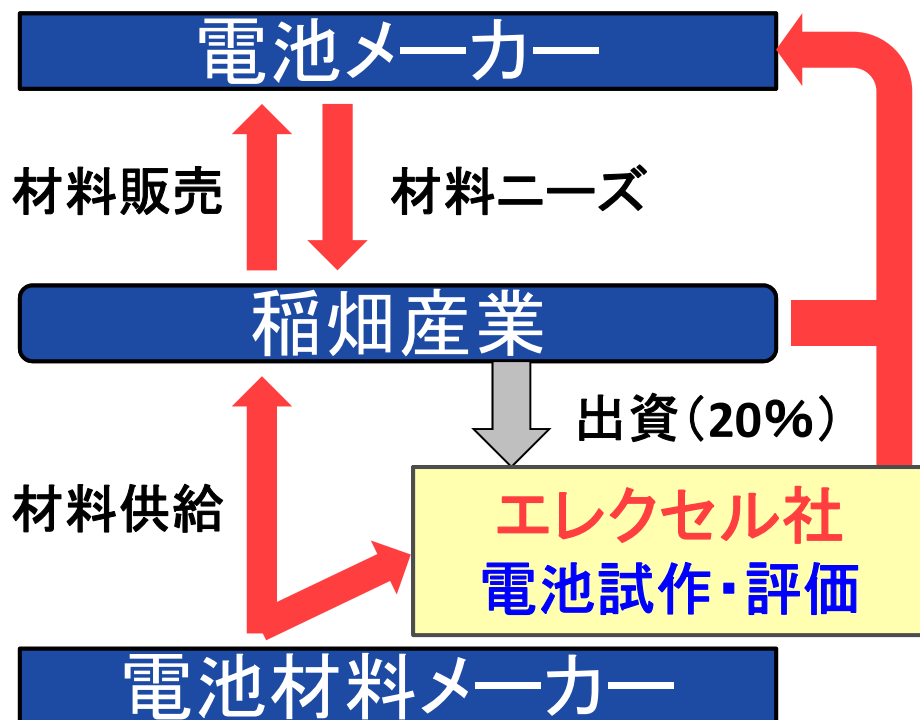


(注) インド現地法人の取引はコミッションベースが主体のため、マージン率よりみなし売上高を算出。
実績と見通しの為替レートは2011年12月末の各通貨の邦貨換算レートを使用。

3. 環境・エネルギー、ライフサイエンス事業の育成・強化

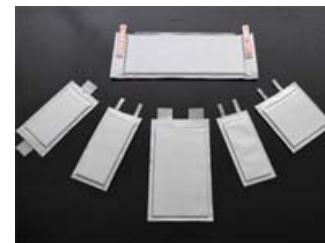
二次電池(LIB)関連ビジネスの展開

エクセル社による電池試作/評価事業を武器に
国内外で電池材料販売を展開



電池材料の提案

セパレータ、正極材料、負極材料、電解液・電解質、バインダー等



- ・有益な評価データを取得
- ・電池技術の知見が豊富

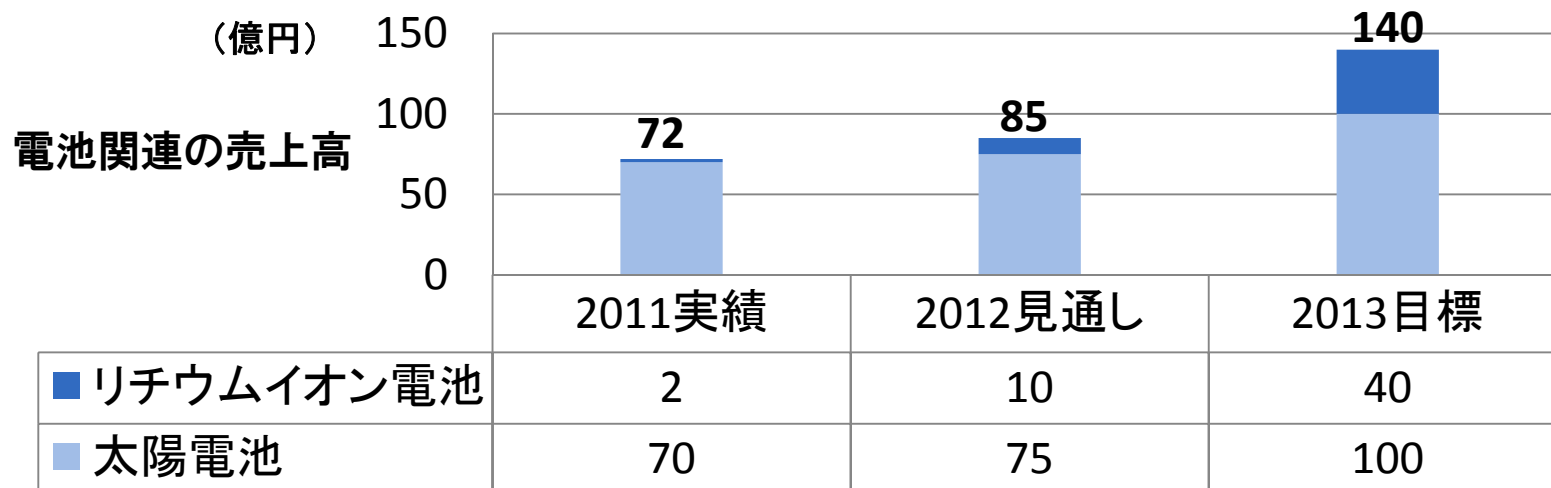
電池関連ビジネスのマーケットと売上高

太陽電池マーケット

供給過多、価格下落により大手太陽電池メーカーの経営が行き詰まるなど市場規模は一時的に落ち込むが、再生エネルギーの潜在需要から、中長期的には市場規模も回復に向かう。

リチウムイオン電池マーケット

主要分野であった携帯電話、ノートPC向けは頭打ちだが、スマートフォン、タブレットPC向け需要により成長が戻りつつある。また自動車(EV,HEV)搭載用の中・大型市場が、近年、急速に拡大。日系メーカーのリチウムイオン電池の技術的優位性は崩れてきており、今後中国・韓国メーカーの競争力が強まる。



(注)リチウムイオン電池は、単体の数値。太陽電池はワールドワイドの数値。

「IK2013」の進捗状況(重点施策)



4. グローバル人材育成のスピードアップ

- 日本からの海外赴任者を3年以内に100名とする
海外赴任者人数 78名(2012年3月31日現在)
- 海外商社部門の増員
現状: 500名 → 3年以内に最低600名、5年を目途に700名に
海外商社部門の人数 533名(2012年3月31日現在)
- 海外研修など人材育成制度の抜本的見直し
グローバル人事の検討を開始



「IK2013」の進捗状況（重点施策）



5. 厳選した投資を実施し、確実なリターンを得る

●3年間の投資枠を90億円に設定

2012年3月期（「IK2013」初年度）の投資実施状況

新規投資額： 22億円

実績内訳：

合成樹脂11億円、化学品3億円、情報電子2億円 他

主な投資実績：

Pharmasynthese設備投資（フランス/医薬/2.4億円）

SIK-INDONESIA増設（インドネシア/樹脂コンパウンド/1.6億円） 他

□ 「IK2013」投資計画 90億円（新規 3年間合計）

既投資案件 : 継続的見直しによる選択と集中

新規投資案件 : 成長の期待できる事業分野と地域に重点的に配分

重点事業分野 : 「情報電子」、「合成樹脂」、「化学品」の3事業分野

重点地域 : 中国、インドを含むアジア地域、中南米

□ 配当方針:

連結当期純利益の20～30%を配当の目安
1株当たり最低限年間10円の安定配当に努める

□ 自己株式の取得: ⇒ 今後とも継続的に実施予定

資本効率の向上を通じて、
株主還元、株主価値の向上を図る

(2012年3月期の実施内容)

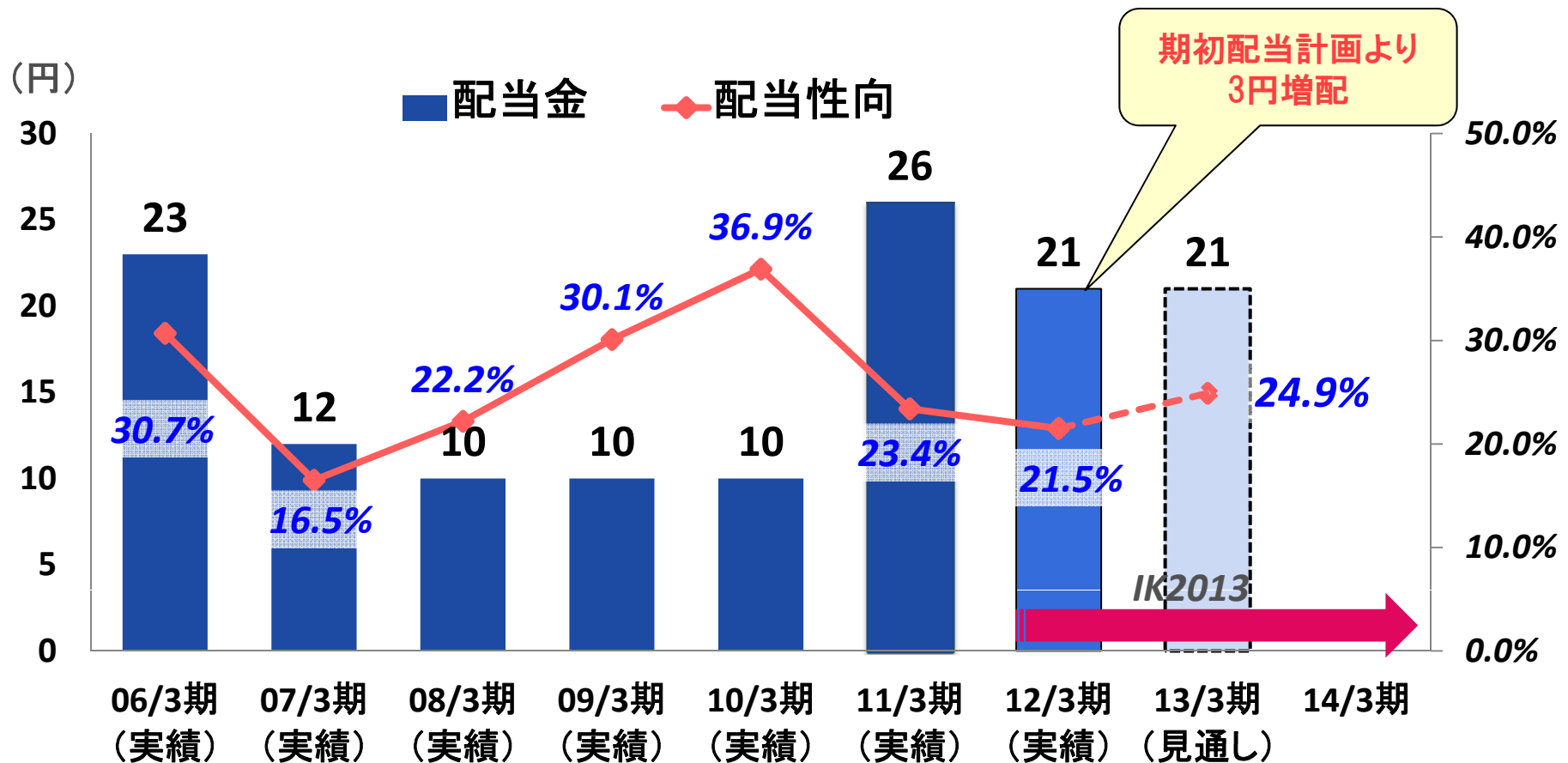
- 取得株式数 800,000株
- 株式取得価額 355,227,500円
- 取得期間 2011年11月10日～12月22日

株主への利益還元



1株当たりの年間配当金と配当性向

配当性向 20~30%を目安

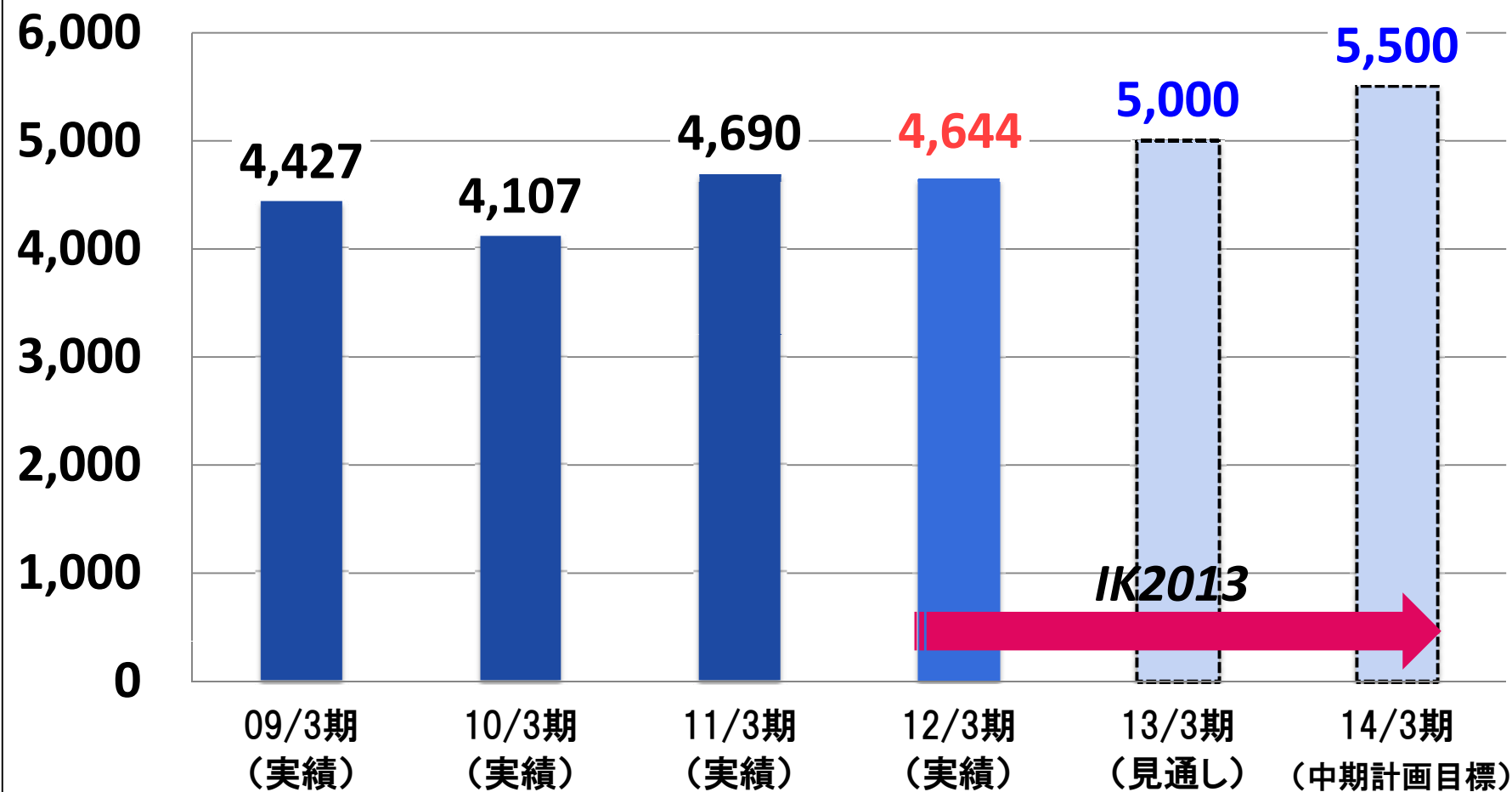


(注) 11/3期は、創業120周年の記念配当2円を含みます。

(参考)「IK2013」定量目標



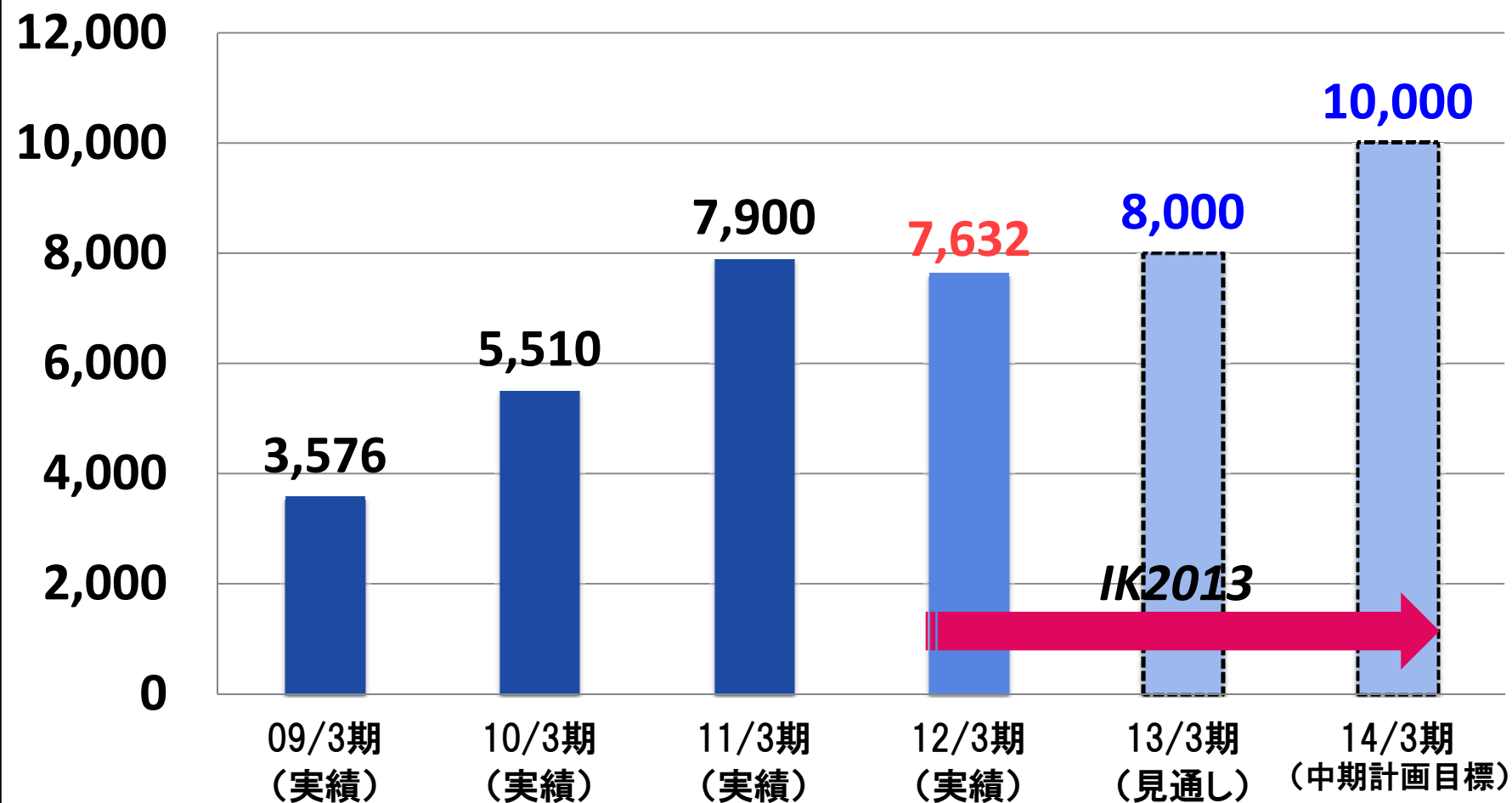
売上高 (億円)



(参考)「IK2013」定量目標



営業利益(百万円)



(注)「IK2013」策定時における13/3期目標は90億円。

(参考)「IK2013」経営指標の推移



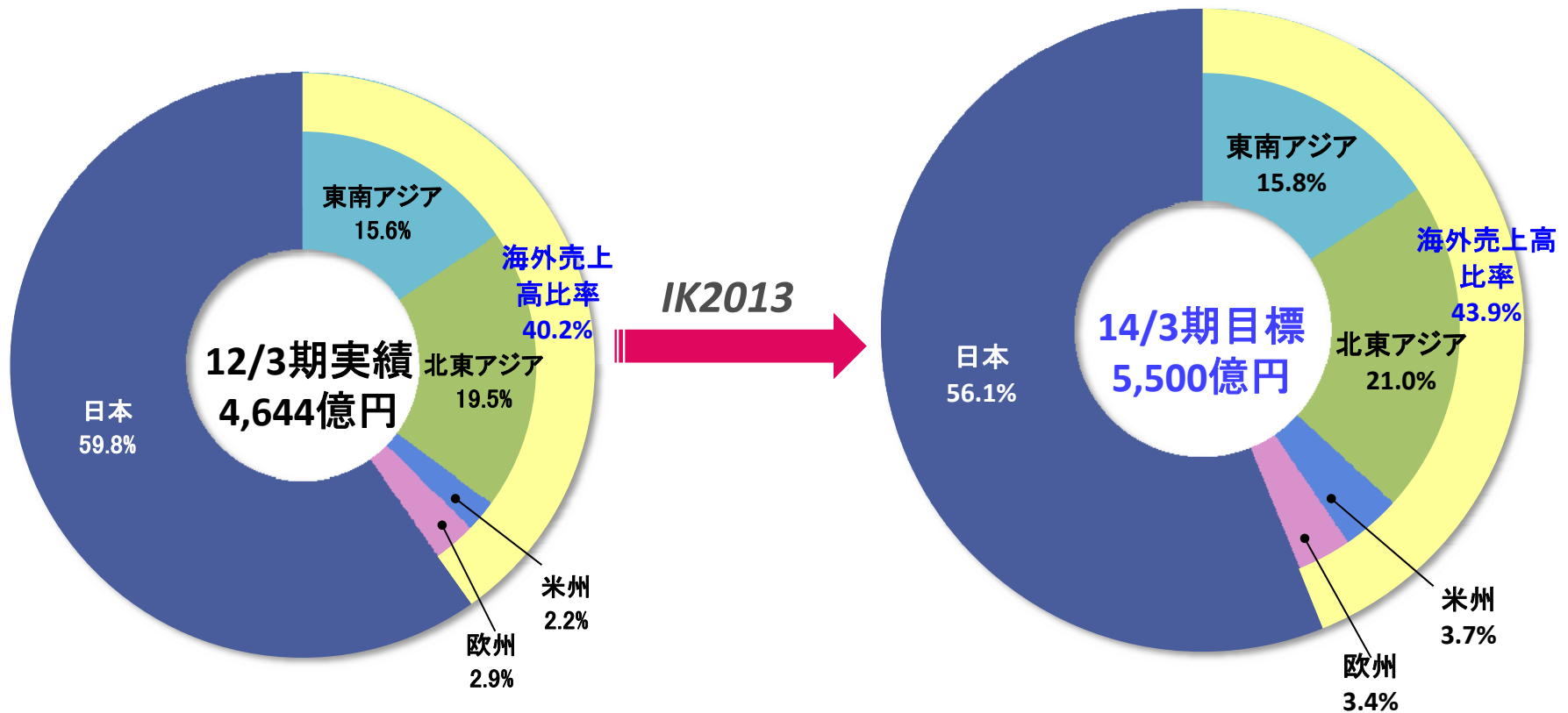
IK2013



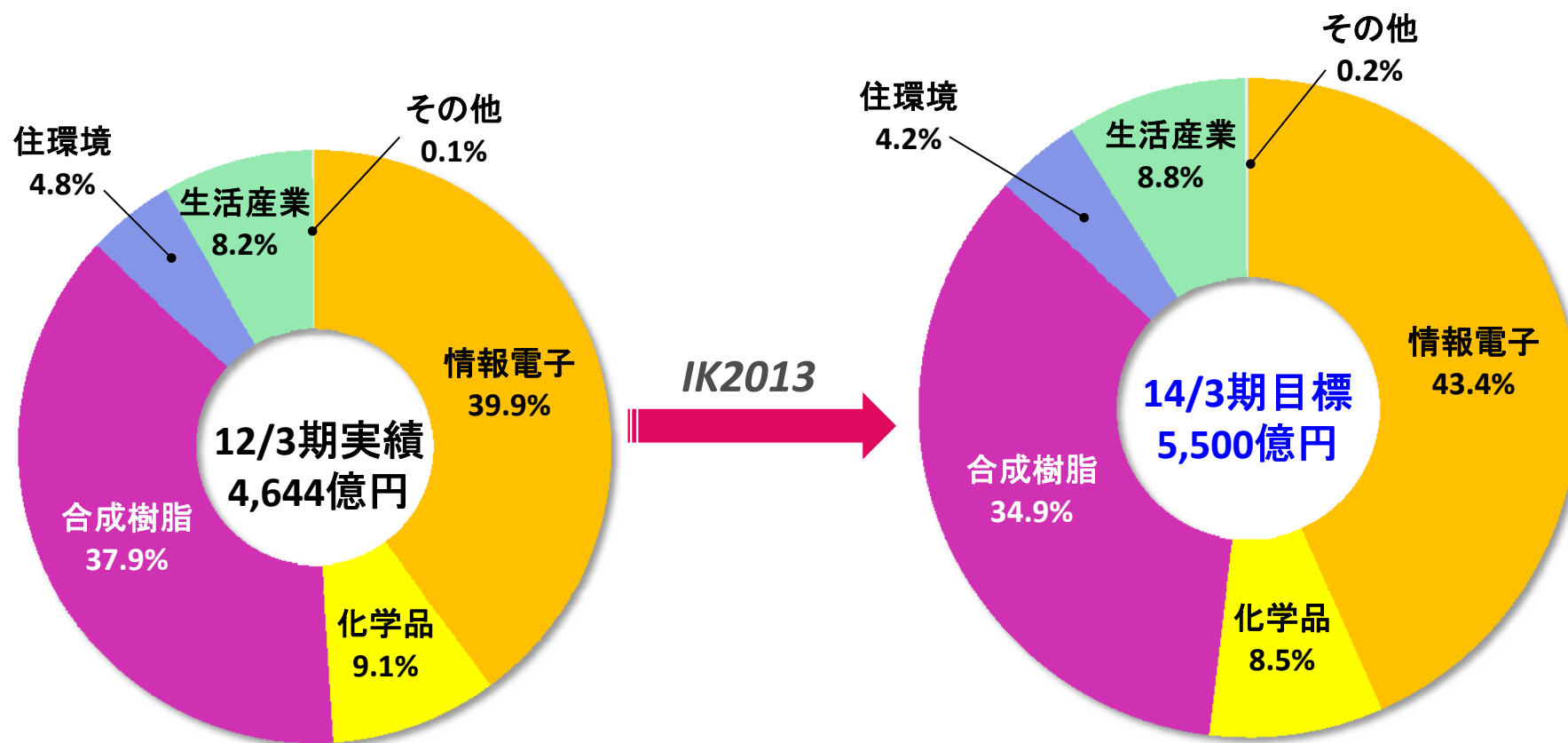
| | 08/3期 (実績) | 09/3期 (実績) | 10/3期 (実績) | 11/3期 (実績) | 12/3期 (実績) | 13/3期 (見通し) | 14/3期 (中期計画目標) |
|-------------------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|----------------|-------------------|
| 自己資本比率 (%) | 27.1 | 29.1 | 29.5 | 29.9 | 30.7 | 30.3 | 29.1 |
| ROE (%) | 3.7 | 3.1 | 2.7 | 10.4 (注) | 8.5 | 6.8 | 7.4 |
| ネットD/E レシオ (倍) | 0.92 | 0.85 | 0.79 | 0.62 | 0.82 | 0.75 | 0.72 |

(注)11/3期(実績)はアイケイファーマシー売却特別利益(税引前31億円)を含んだ数字で算出。

地域別売上高構成比



事業別売上高構成比



(注) 比率は、12/3期実績、14/3期「IK2013」目標共に2012年4月1日からの新セグメントに組み替えたもの。

(参考)事業セグメント概要



情報電子



| | |
|-----------------------|---|
| ディスプレイ・ケミカル装置 | 液晶ディスプレイ(LCD)関連、LED関連業界への部材の供給および各種製造装置の取扱いを中心に、新規分野への展開も視野に高度な専門知識を活かした提案型ビジネスを展開。 |
| 映像・情報 | 複写機、プリンター業界のお客様にインクジェットやトナー原料、カートリッジなどの各種部材の販売、また専門知識を活かした幅広いサービスを提供。 |
| エネルギー・エレクトロニクス材料・電子材料 | 半導体、LED、タッチパネル、太陽電池、二次電池、産業用フィルム業界等のお客様に、原料からプロセス材料、製造・検査装置、製品まで、高度な専門性を駆使したソリューションを提供。 |

合成樹脂



| | |
|----------|--|
| 成型材 | 塩ビ樹脂、可塑剤、添加剤やポリオレフィン系、スチレン系樹脂などの汎用樹脂から各種コンパウンド、エラストマー、エンジニアリング・プラスチック、合成ゴムまで幅広い仕入ソースを背景にお客様のニーズ、シーズに合致した提案や製品展開に注力 |
| 高機能樹脂 | エンブラ、スーパーエンブラ、特殊樹脂を中心に家電、OA、電子部品、自動車、建材分野のお客様に提案 |
| 産業材 | ポリオレフィン原料、フィルム製品が中心で、原料メーカーとのタイアップや海外展開により充実したサービスを提供。環境対応商品、高機能商品の開発にも注力。 |
| フィルム・機能材 | コンバーター業界に対するフィルムビジネスをコアに、工業材料分野・自動車分野にも製品展開を行い、汎用・高機能オレフィンフィルム販売から食品・工業用向け最終製品までのコーディネートを提供 |
| シート・成形材 | PP,PS,PET樹脂などのシート類やその原反のみならず製品加工までと原料から製品までと一貫介在し、物流コストの効率化・コスト低減に寄与 |

化学品



| | |
|-------------|--|
| スペシャリティケミカル | 自動車部品から電子材料まで多岐にわたる業界に高機能化学品をグローバルに展開。 |
| パフォーマンスケミカル | 塗料、インキ業界向けを中心としたコーティング原材料と製紙関連薬品、接着剤原料および製品等、幅広い商品をタイムリーに提供。 |

住環境



| | |
|------|--|
| 住宅建材 | 住宅メーカー・建材メーカー向けパーティクルボード、木材、集成材、建材、プラスチック製品などの販売 |
| 環境資材 | 住宅設備機器メーカー向け・非住宅分野向けに原材料から半製品・製品までの販売 |

生活産業



| | |
|-------------|---|
| ファーマケミカル | ヒューマンヘルスケアの様々なシーンにおける医薬原料の提供 |
| 環境・ファインケミカル | 日用必需品の原料調達をグローバルにサポート。商品の企画から製品までトータルソリューションを提供 |
| 食品 | 安心・安全な水産物、農産物を世界中から提供 |

会社情報



| | | | |
|----------|--|------------------------------------|---|
| 会社名 | 稲畑産業株式会社 | 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 創業 | 1890年10月1日 | 上場市場 | 東証一部、大証一部 |
| 設立 | 1918年6月10日 | 証券コード | 8098 |
| 資本金 | 93億6千4百万円 | 単元株式数 | 100株 |
| 代表者 | 代表取締役社長 社長執行役員 稲畑 勝太郎 | 株主数 | 5,801名 |
| 本社 | 大阪本社/大阪府中央区南船場 一丁目15番14号 東京本社/東京都中央区日本橋 本町二丁目8番2号 | 大株主の状況 (持株比率 上位3株主と 持株比率) | 住友化学株式会社 21.5% 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 4.8% 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 4.3% |
| 従業員数 | 569名〔連結3,721名〕 | | |
| 発行可能株式総数 | 200,000,000株 | | |
| 発行済株式の総数 | 65,159,227株 | | |

(2012年3月31日現在)

人と人をつなぐ、あなたのベストパートナーでありたい。

IK 稲畑産業株式会社

□ IRに関するお問い合わせ先

稲畑産業株式会社 経営企画室 広報部

TEL 03-3639-6546 FAX 03-3639-6793

E-mail inabata-ir@inabata.com

◆将来の見通しに関する注意事項

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものです。従いましてこれらのデータや将来の予測は、不確定な要素を含んだものであり、将来の業績等を保証するものではないことをご理解下さい。

◆数値の表示に関して

資料内の億円単位、百万円単位の数値は、それぞれ億円未満、百万円未満を切り捨てておりますので、個別数値と合計数値・増減額が一致しない場合があります。